

研究室紹介号

mILK

知識情報・図書館学類誌

Extra

October, 2025

知識情報・図書館学類誌MILKとは？

M Management

I Information

L Library

K Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年2回（7月・12月）お届けしています。

今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENTS

知識科学主専攻

于海 涛 研究室	02
上保 秀夫 研究室	03
寺地 美奈子 研究室	04
照山 絢子 研究室	05
松林 麻実子 研究室	06
叶 少瑜 研究室	07
松原 正樹 研究室	08
横山 幹子 研究室	10

知識情報システム主専攻

宇陀 則彦・松村 敦 研究室	11
鈴木 伸崇 研究室	13
関 洋平 研究室	14
永井 正勝 研究室	15
加藤 誠 研究室	16
阪口 哲男 研究室	17
山本 修平 研究室	18
時井 真紀 研究室	19
金 宣経 研究室	20
陳 研究室	21
森嶋 厚行・伊藤 寛祥 研究室 (融合知能デザイン研究室)	22
落合 陽一 研究室 (デジタルネイチャー研究室)	24
若林 啓 研究室	26
李昇 姫 研究室	27

情報資源経営主専攻

鈴木 佳苗 研究室	28
吉田 右子 研究室	29
村井 麻衣子 研究室	30
小泉 公乃 研究室	31
バー ルィ シェ フ・エドワルド 研究室	32
小野 永貴 研究室	33
高良 幸哉 研究室	34
武田 将季 研究室	35
原 淳之 研究室	36
村田 光司 研究室	37

※執筆を承諾していただいた先生方への掲載となります。学生
を募集する研究室のすべてについては、学類からの掲示などでご
確認ください。なお本冊子に掲載されております情報は2025年9月
時点の情報です。



筑波大学 II 研究室は、情報知能の研究を行っている研究室です。II は Information Intelligence の略です。研究室の詳細についてはホームページをご覧ください：<https://ii-research.github.io>

ゼミの頻度・年間スケジュール

ゼミは週 1 回行います。ゼミの前にはラボノートを準備してくるのがルールです。着手発表会や中間発表会の前後に学内外他研究室との合同ゼミを行い、多様なフィードバックを得ながら研究を進めていきます。

学生の研究テーマ例

- Image-grounded Affordance-centric Knowledge Extraction and Inference
- Towards Trustworthy Retrieval-augmented Generation (RAG) with Reliable Attribution
- Towards Deeper Alignment of LLMs Based on Computational Human-value Understanding

II 研究室の最近のニュース

- 2025.09: Kaipeng Li さん(修士 2 年) が筆頭著者を務める生成式情報検索(Generative Information Retrieval)に関する論文が、SIGIR-AP2025 にフルペーパーとして採択された。
- 2025.08: Dawei Li さん(修士 2 年) が第二著者として執筆に参加した階層的感情分析(Hierarchical Emotional Analysis)に関する論文が、ADMA2025 にフルペーパーとして採択された。
- 2025.05: 王さん(博士後期 2 年)が提案した「Fact-based Event-centric Human-value Understanding」が、NTCIR-19 において「Pilot Task」として採択された。
- 2024.02: 譚さん(修士 2 年)が令和 6 年学位プログラム優秀学生表彰を獲得した。

メッセージ

第 3 次人工知能ブームを牽引しているのは、機械学習技術の進化であることは皆さんもよくご存じでしょう。本研究室では、機械学習や生成 AI を深く理解し、実践を通じて現実の課題を解決できる力を養成することを目指しています。大学時代に得られる成果は、「考え方」「熱意」「能力」という三つの要素の掛け算で決まると考えています。勉学だけでなく、積極的にさまざまなことに挑戦し、多くの経験を積んで学んでほしいと思います。

旺盛な好奇心と柔軟な思考力を持ち、機械学習を通じて現実の問題解決に挑みたいと考えている皆さんの参加を広く歓迎します。毎年 10 月に開催されるオープンラボへの参加を強くお勧めしますが、それまで待てない方は個別にメールでご連絡ください。連絡先はホームページに掲載しています。

 基本情報

 3名（学群生）

 3~5名（知識科学）

 情報メディアユニオン203

 joholab.slis.tsukuba.ac.jp

 [@joholab_ja](#)

 研究分野について

本研究室は2026年度から人間と生成AIモデルの情報検索行動を研究します。代表的なリサーチクエスチョンは以下の通りです。

- 人間はどのように検索エンジンを使っているのか
- 生成AIモデルはどのように検索エンジンを使っているのか
- 人間同士はどのように協力して検索しているのか
- 生成AIモデル同士はどのように協力して検索できるのか
- 人間と生成AIモデルはどのように協力して検索できるのか

ユーザ

人間

生成AI

コラボレーション

検索行動

① クエリ（プロンプト）生成
② 検索結果から文書選択
③ 選択文書の適合性判定
④ クエリ（プロンプト）書換え
⑤ 次検索行動選択

ドメイン

検索エンジン

メディア

2026年度年間スケジュール			
時期	活動内容	時期	活動内容
2025年12~2026年2月	 オンボーディング  文献レビューと仮説形成	2026年9~10月	 仮説検証と図表作成  中間発表会
2026年3~5月	 実験環境の構築と倫理審査申請  バーベキュー大会	2026年11月	 考察と追加分析  論文執筆
2026年6月	 予備実験と実験計画の修正  着手発表会	2026年12~2027年1月	 論文執筆と推敲  最終発表会
2026年7~8月	 本実験の実施とデータ収集	2027年2~3月	 学会投稿・発表

 ゼミの頻度

 全体ゼミ：週1回（2コマ） 勉強会：週1回（1~2コマ） 個別ミーティング：随時

 過去の卒論・修論テーマ例（カッコ内は発表した国際会議や論文誌）



- 生成系AIが協調的旅行計画作業の過程と成果に与える影響について（iConference 2025）
- 大規模言語モデルに付与した性格特性が情報検索行動に与える影響（SIGIR-AP 2024）
- Selectively Expanding Queries and Documents for News Background Linking（CIKM 2022）
- 津波避難行動における情報探索の影響（情報メディア研究 19巻1号）
- 共同作業中の対話に潜在する情報ニーズの類型化（SIGIR 2017）
- 情報探索行動における制約の効果（ICADL 2012）

 上保研究室に配属されると・・・

 直接丁寧に指導してもらえる

 時間・タスク管理スキルが身につく

 サイエンスリテラシーが身につく

 自分の頭で考える力がつく

 仲間と一緒に頑張れる

 ライティングボードを参考に論文執筆できる

 研究室文庫にある専門書や技術書が読み放題

 ラムネが食える

寺地美奈子研究室

教員研究室：7D307

共同研究室：7D240

連絡先：minakota@slis.tsukuba.ac.jp



メンバー募集

知識科学主専攻 3～5 名を募集しています。

本研究室では、新聞・ラジオ・テレビなどのオールドメディアから現在のメディアに至るまでを幅広く対象とし、メディアが社会をどのように形成し、また社会がどのようにメディアを形成しているのか、地域や技術を出発点として考えていきたいと思います。研究方法としては、番組分析やデータ分析、フィールドワーク・資料収集による実証的調査などがあります。研究室に所属する学生の皆さんには、基礎文献を広く読み、主体的にコツコツ勉強を積み重ね、自分の力で何かを発見をしてほしいと考えています。

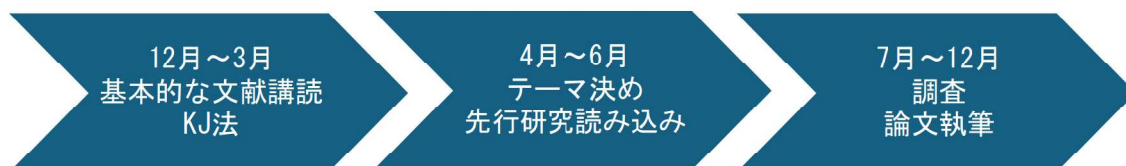
本研究室を希望する場合は、必ず面談を受けてください。対面・オンラインどちらでも構いません。まずは上記のメールアドレスに、面談希望のメールを送ってください。定員を上回る場合は「これまで勉強してきたこと、今関心があるテーマについて」（400 字以上）と GPA によって総合的に選考いたします。

過去のテーマ例

- ・メディア利用とユーザーの消費行動の関連性について
- ・プロ野球とメディアの関係性について－阪神タイガースの地域性に着目して－
- ・ネタバレが映画視聴に与える影響に関する研究
- ・就活生の志望形成プロセスに関する研究
- ・信仰と観光をめぐる筑波山のあり方の変容－2010 年代のパワースポット・ブームに着目して－
- ・大学生の映像メディアに対する意識と実態－「不便さ」を中心として－

ゼミの運営方法

基本的に、週に 1 回 2 時間程度のゼミを実施します。12 月からのプレゼミでは基本的な文献の講読を進めながら、研究テーマの方向性を考えてもらいます。4 月からは各自で研究を進め、ゼミでは進捗状況を発表し合い、皆で議論を重ねます。全体でのフィールドワークなどを実施する可能性もあります。



照山研究室

1. 概要

- 現在のメンバー : 4年生5名(科学4名、資源1名) / 院生11名(修士9名、博士2名)
- 研究室 : 情報メディアユニオン3階・学系共同研究スタジオ4(303-1)
(常駐可。ソファ、PC等あります。) ※叶研との共同研究室
- 形式 : 週1回2限連続でゼミをしています(ゼミの日程は、学期始めにそれぞれの時間割を確認して、全員が被らない日程を探します)。文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。長期休暇中はゼミなし(各自じっくりフィールドワークに取り組むことを期待します)。
- 連絡先 : teruyama@slis.tsukuba.ac.jp (照山絢子)



▲本棚には、輪読に使用する書籍や、過去の学生が研究に使用した書籍が配架されています。

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「インタビュー」及び「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。
(例) 図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します。

受入人数：最大5名 知識科学主専攻0～5名 情報資源経営主専攻0～2名

今年の4年生の卒業研究テーマ

- デジタル技術を活用した教育の現状と課題に関する研究：水戸市
- 日本語教育でのティーチャートークに関する研究：つくば市 日本語学校
- 独立リーグ埼玉武蔵ヒートベアーズに関する研究：埼玉県 ホーム主催球場
- 緊縛の技術習得に関する研究
- FPSゲーマーへの偏見に関する研究

本研究室のおすすめポイント

- 研究室は24時間使い放題
- 鍵付きの研究室の中の設備・備品も充実(エアコン・電子レンジ・冷蔵庫・ソファ・iPadなど)
- 学部生/院生を問わず、留学生がたくさん！
- 研究に必要な本を経費で買ってもらえる
- 合宿がある(例年2～3月頃)
- ゼミへの参加はオンラインでも可能
- 皆が違うジャンルの研究をしていて刺激になる

3. Q & A

Q1. 卒業研究はどのように進めますか？ 先生に相談しながら進められますか？

A. 基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

Q2. 研究テーマはどのようなものがありますか？

A. 過去の学生の研究テーマについては、学類ホームページや希望研究室登録システム HOPE などからご確認ください。内容は人によって様々ですが、特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通しています。

Q3. 飲み会やゼミ合宿はありますか？

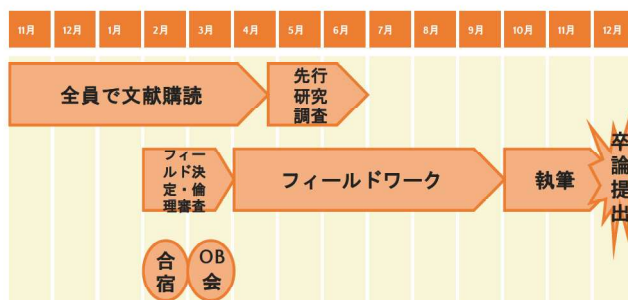
A. 飲み会は年に2～3回、慰労会のような形です。合宿は現地で調査を行う研究旅行です。今年2月には福岡県での研究旅行を行いました。

Q4. どのような雰囲気の研究室ですか？

A. 和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に意見交換が行われ、色々な考え方に触れられます。

Q5. 年間スケジュールを教えてください。

A. 卒論提出までのスケジュールは右の図の通りです。



松林麻実子研究室

指導教員研究室:7D215

学生共同研究室:情報メディアユニオン 4F 405-1
(上保研と共同です)

構成員(2025年10月1日現在)

知識情報・図書館学類 4年次 5名(知識科学)



知識科学主専攻 3名, 情報資源経営主専攻2名
まで受け入れます。

◆指導可能な研究テーマ

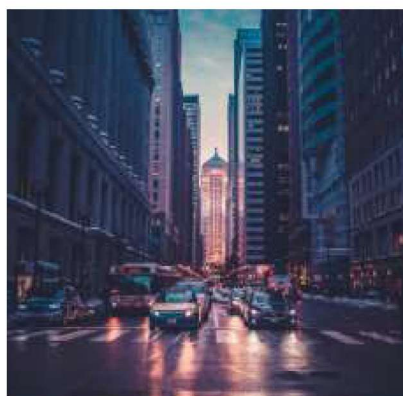
情報行動(情報探索・利用・共有・管理など)と情報メディアとの関係について、主として社会学もしくは社会情報学観点から考察することを目指す研究テーマ全般。得意な研究手法は、ユーザ研究では半構造化インタビュー法、メディア研究では内容分析(テキスト分析)・談話分析。必要に応じて実験や質問紙調査などを組み合わせることも。

- ◇ 人間と対話型生成AIなどの情報技術との共生:技術を使う側の視点に立って、新技術は人々の暮らしや意識にどのような変化をもたらすのか、新技術はどのように使えば人間と共生できるのか、について考えます。
- ◇ 若年層におけるニュース消費:従来は、ニュース消費と言えば、(決まった)新聞を読む、もしくはテレビニュースを見るという習慣的かつ受動的な行為を意味しましたが、現在ではソーシャルメディアを介した“ながら行為”が中心であると言われています。また、なかには、コメントを書き込むことで自ら「ニュースに参加」できるようになることもあります。このようなメディアを利用する若年層にとっての「ニュース消費」について考えます。
- ◇ 動画共有メディア上の番組の特徴分析:YouTubeやTikTok等でどのような情報や知識が伝達されているのか、また、それらの利用を通してどのような意識や価値観が生み出されているのかについて考えます。

上記のテーマ以外にも広く情報行動研究や情報メディア研究に興味がある人たちと研究活動をやっていきたくと思っていますので、興味がある事柄について話してみてください。

◆ゼミの運営方法

週1回2時間程度の定例ゼミを基本とします。他の仲間が研究活動を進める様子を見て学ぶことも重要だと考えますので、個人で研究したい人にはあまり向かないかもしれません。プレゼミ(3年次)では興味がある研究テーマに関わる文献検索と読解をメインに、2~3月頃から卒業研究の具体的なテーマを考え始めて、本ゼミ(4年次)では卒業研究のテーマ一本に絞るというペースで進めていきます。研究室に常駐することは求めませんが、卒業研究を優先できる人を希望します。



◆本研究室を希望する場合は必ず面談を受けてください

研究室訪問期間中に必ず面談を受けてください。在室していれば飛び込みでも対応しますが、事前にメールで希望する日時と形式について予約していただくのが確実です。面談で自分の興味がどのようなところにあるかを説明できるようにしておいてください。

よく学び、よく遊べ Work Hard, Play Harder

メディア心理学研究室の紹介

- ・ 教員：叶 少瑜 Email: shaoyu@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 研究室 教員：7D206 号室 学生：ユニオン 303-1
- ・ ゼミ指導：全体ゼミによる進捗報告と共に、必要に応じて個人指導による指導も行います。ゼミは原則対面で行います
- ★ 研究内容：主にメディア心理学のアプローチから、対人関係・心身の健康におけるメディア利用の影響を究明するため、主として量的調査法と実験法を用います。
- ★ 研究に対する捉え方：料理することと同じだと思っています(笑)。



本研究室では、現在以下のような研究を進めていますが、これらに限定されずに、コミュニケーションや心身の健康、メディアに興味・関心のある方を歓迎します。なお、本研究室は人を対象にする研究するため、フットワークが軽く、人間嫌いではない方を優先して受入れます。

【メディア使用と心身の健康】

メディアの多用が心身の健康に多く面で負の影響をもたらすことが明らかになっています。しかし、COVID-19 等により人々が必然的にメディアを多用する生活様式になり、如何にすれば心身の健康を保つことができるのか、日本を中心に、香港等との国際比較研究を通じて究明しています。ぜひやってみませんか？

【After コロナと社会的適応】

「モバイル×ソーシャル時代」時代において、COVID-19 の影響で変わった生活様式や対人関係が如何に我々の社会的適応と関係するのかは最近の研究課題として進めています。また、SNS だけでなく ChatGPT 等、コロナ禍で普及率が大幅に高くなったものが我々の日常生活に浸透してきているため、多角な視点からの検討が必要になりました。

【SNS と居場所づくり】

ここ 20 年近く様々な SNS の登場によりコミュニケーション行動が大きく変化してきました。例えば、Discord は海外では主にゲームをプレイするために使われるが、日本の若年層が友人との連絡ツールとして使用し、心理的な繋がりを保とうとします。それはオンラインコミュニティが家庭や学校と異なる居場所になる可能性があるのか探ってみませんか？



2016 年度卒論生渋谷さんが
学会発表にて優秀賞受賞



2016 年度卒論生内田さんが
学群長受賞

身体知と

芸術表現

研究室



まつばらぼ合宿 2025 @軽井沢

【キーワード】

身体知・実践知・暗黙知
アート表現・感性・メタ認知・熟達
ウェルビーイング・生きがい・自己実現
マインドフルネス・コンパッション・観想教育
システム思考・見立て・共感・共鳴・場づくり
混合研究・ポスト質的研究・一人称研究
オートエスノグラフィー・アートベース・リサーチ
人とAIの認知的インタラクションデザイン

【ゼミの進め方】

学部ゼミ：週1回 2.5時間（卒論生中心のゼミ）
院ゼミ：週1回 2.5時間（大学院生中心のゼミ）
※いずれも実践中心のゼミ回を含む
個別打ち合わせ（任意）

【メンバー】

学部生：6名（B4：5名，B3：1名 ※ARE生）
大学院生：7名（M1：3名，M2：1名，Dr：3名）
松原正樹 先生 計14名

- 特徴 -

研究者（学生）自らが、身体的実践を
継続して主体的に取り組み、得られた経
験の分析を通して、体験的な理解と共に
知恵を体現する存在になることを目指し
社会還元します。



現4年生の研究テーマ

- ハンドボールにおける身体接触に関する古武術的身体操法の応用 -一人称研究を用いて-
- 観戦体験における身体知の形成プロセス -熟練した観戦者はいかにして生まれるのか-
- 物語の断片を創ることの一人称研究
- 閉所の居心地に関する一人称研究
- アートベース・リサーチによる"纏う"の探究

こんな人待ってます



学びの場をみんなと創れる人
からだを動かすのが好きな人
自分のフィールドを探究する人

本研究室ではからだを通じたアート表現によりからだところを観察します。
アート経験の有無は問いません。
アートに興味がある人も、無い人も、
自分自身について深く研究したい方は
ぜひ、説明会にお越しください。

松原研説明会（途中入退室可）

説明会は全2回開催を予定しております。
今後、Webページに情報を載せますので
適宜ご確認ください。お待ちしております。



Webpage



@MatsubaLab2024



@MATSUBALAB2024

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

- ① 主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。
 - ・『Le Petit Prince』日本語版における翻訳間の類似性・差異性を記号論を用いて考える。
 - ・ウィットゲンシュタインの言語ゲーム論を使い宮澤賢治作品における猫について考える。
- ② 哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。
 - ・哲学の方法論として直観は使えるか。
 - ・人の心は脳に還元できるか。

現在のゼミ生の研究課題

- ・AI/ロボットは道徳的行為者となり得るか：生成 AI 以前と以後の比較
- ・TRPG における虚構世界の不完全性について：虚構世界論を手掛かりに
- ・人格の同一性における一人称的視点：パーフィットの考えの検討を通して
- ・『はてしない物語』における没入感：ウォルトンのメイクビリーブ説を手がかりに
- ・図書館情報学における情報概念について：マーシャ・ベイツとピアウヤ・ヤアランの対立に注目して

ゼミの概要

募集：3-4 名

長期休暇の例外を除き、週 1 回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の 1 週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、一人 30 分から 40 分 × 人数を予定しています。一人一人が 1 週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3 年生の内にテーマを絞り、4 年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

卒業後はどうするのか？

多様です。大学院進学(自他)、大学の図書館員、市役所、高校の数学の先生、アーカイブ関係、SE やテクニカルライティング関係、金融機関の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージ師。最近では、アーカイブ関係やテクニカルライティング関係が多いです。就職が決まったらゼミの先輩がいたとの報告を近年よく受けます。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に付けていただければと思っています。

興味のある方は、横山(mikiko@slis.tsukuba.ac.jp)までご連絡ください。

宇陀則彦・松村敦研究室紹介

(用語集)

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいます？」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。過去には台風を呼び研究会を中止に追い込んだこともある。**うだまつみ／うだまつみ研**

長く続いた宇陀・松村研による「うだまつ」時代。そこに、新たに誕生した堤研が合流し、3研究室の合同チームが結成された。↓堤先生**宇陀・松村研プレゼン心得**

発表スライドの作成と発表時に考えなければならぬことを五カ条にまとめたもの。その五に「笑いを三つ取ること」とされている点に特徴がある。

打ち上げ

卒論の発表会後にうだまつ研合同で行う、自由参加で楽しいイベント。松村研はほぼ全員集まるが、なぜか宇陀研は毎回揃わない。宇陀研が全員揃って参加する日は果たしていつなのか…?

うどん／うどん会

松村先生の好物。つくばにはま

もなうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。最近、「やまびこ弁天」へ通う「うどん会」が発足しstackチャンネルもできた。目標はメニュー全制覇。

絵本

松村研のテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチをとる。絵本好きなら誰でもウェルカム！

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必須。

オーブンラボ

毎年研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが直接研究室の説明をする。3年生だけでなく、2年生や1年生も来てかまわない。

お花見ゼミ

ゼミを桜の木の下でブルーシートを広げて行うもの。ゼミというよ

りはお花見。ゆるーく研究テーマを洗い出す。果たしてこのゼミから生まれた進捗はあるのだろうか…。

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本(漫画含む)」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイティハーサを置いたために作られた机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。ハマるかハマらないかは読んでみないとわからない。

近未来シリーズ

雙峰祭で出展する企画名のこと。2020年に出版して以来、グランプリを3度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。2025年は「近未来ビブリオ博覧会」を実施予定。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭、この一週間の研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。Xに投稿される要約は、内輪ネタを一文に切り取っている。ゼミ生以外は理解できない。

情報学学位プログラムリーダー

情報の混沌を極める大学院の教

育プログラム「情報学学位プログラム」を背負って立つ者に与えられる称号。現在は宇陀先生がこの称号を与えられている。会議冒頭の「クロージアアップ現在」(クロ現)のファンも多いとか。

スクラップボックス(Scrapbox)

研究室運営に関する共有情報、各自のゼミ資料、研究会参加記録など、なんでも突っ込んでおくところ。適度なリンク構造で情報が芋づる式に出てくるため、研究室の外部脳として機能している。

ストレングス・ファインダー

自分の強み発見をしてくれる診断テスト。34の強みから上位5位が分かる。ゼミ配属後に「付きの本」が配られ、自分で診断する。研究室で強みを発揮して活動してもらいたいという期待がある。なお、「指令性」を持つ人は、まだ現れていない。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は1時間しかからない。松村研は5時間におよぶことがある。必要に応じて個別ゼミを行うことがある。発表前は連日練習すること。

ゼミ生

大学院生も含めて総勢15人。研究だけに没頭する者もいれば、合宿や雙峰祭に貪欲な者、飲み会で突然

開花する者、アルバイトにあけくれ
てオンラインでしか会えない者……。
何が本業かは人による。カンブリア
紀並みの多様性を維持しているの
が特徴。共通点は「よくわからない
けど楽しそう」なこと。

大学院生

近年、生息数が急増中。来年は、
ついに卒研究生を上回る勢力に。普段
は優しく時に厳しく卒研究生を指導
しているが、たまに飲み会で本領発
揮してくるので被害に遭う者も多
い。適度な距離感で付き合いつつ、
その知識と経験をうまく吸収でき
れば、研究生生活がぐっと安定するだ
ろう。

知識情報概論

2020年度の授業アンケートで全
学2位を獲得した伝説の講義。Rさ
ん、Mさん、Uさんという人間に間
違われるほどの人工知能が人気の
秘密である。

堤先生

心優しき人文社会系の先生。困っ
ている学生に救いの手をさしのべ、
発狂するオタクを生暖かい目で見
守ってくれる。今やうだまつには欠
かせない存在である。最近になって
大学院生の配属があり、めでたくう
だまつに合流した。冬のコミケに行
くと会えるらしい。↓うだまつみ

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと
卒論／修論に関わらない研究活動
が目的。現地集合、ホテル各自確保
という「合宿」の概念を覆す試みを
続けている。これまでに、高松、函
館、津、青森、熊本、広島、金沢、
倉敷、米沢を訪れた。その後、コロ
ナ禍で途切れていたが、2023年つい
に復活。富山、甲府と続いた後、2025
年、伊香保にて「はつおうと」伝説
が誕生した。↓はつおうと

7D240

我々が共同研究室。寺地研と共同。
ソファ、電子レンジ、電子ケトル、
冷蔵庫が備わっており、あとシャワ
ーさえあれば暮らすことができる。
発表会前や卒論提出前はお風呂に
入った後に戻ってきて夜を明かす
人が続出する。共用プリンタに出力
を取りにきた先生が、しばしば怪訝
な目でこちらを見て去っていく。

飲み放題

とあるゼミ生がこよなく愛する
宴会の設定。2024年夏合宿で多発し
た。このスイッチを押すと朝まで同
じ話を何度も聞かされるはめにな
るので注意が必要である。

はつおうと

2025年合宿の宴会後に発生。合宿
イベントの短歌型アーカイブス最

優秀賞の初句にも使われていた。こ
の場での詳説は控えておく。

パパコレ

「パパこれ買ってー」の略。研究
に必要な文献などを先生に頼むた
めのstackチャンネルの名前。買って
くれるのは先生なので、先生「パ
パな訳だが、指導教員をパパと表す
という何とも業の深い命名である。別
にリアルで先生をパパと呼んでい
るわけではない。

はるお

某小野研が送り込んできた凄腕
スパイのコードネーム。うだまつの
ゼミ生たちを完全に手なづけてい
て、情報は筒抜けである。2024年夏
合宿で機密情報を掴んだ模様。少し
汚れたシルバニアに盗撮カメラが
仕込まれている。Z級映画が好み。
ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだす
と先生が注文してくれる。経験則に
より、4人にLサイズ1枚で計算す
るとちようどよい。

プチ合宿

夏休みの1週間ほど、教室を借り
て、朝から晩まで集中して研究を行
う会。みんなで出前をとる昼食が楽
しみ。過去、プチ合宿によって卒研
が格段に進んだという例が多い。コ
ロナ禍には、ユニオン1階講義室の

広大な空間を少人数で独占すると
いう贅沢を味わうと同時に出前館
のお得意様になった。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240
は席が固定されておらず、どこでも
気分に応じて自由に席が選べる。コ
ミュニケーションが活発になり、知
識創造が起きやすい。

本棚

宇陀研の永遠の研究テーマの一
つ。これまで数々のゼミ生がチャレ
ンジするも、宇陀先生のツツコミに
屈服することの繰り返し。いつか必
ず「宇陀越え」を果たす英雄が現れ
ると信じられている。

モジモジ

スライド1枚当たりの文字が多
く、文字ばかりになっている様子の
「文字文字」から生まれた言葉。モ
ジモジしていると聞いている人も
よく分からずモジモジしてしまう
可能性もある。

夢会

配属後の初ゼミで行う夢を語る
会。模造紙に自分の夢を描いて発表
する。過去には、「機械の体が欲しい」
のような尖った夢から「孫3人と幸
せに暮らしたい」とほんわかした夢
まで様々語られてきた。彼らは夢に
どのくらい近づいたろうか？

鈴木伸崇研究室

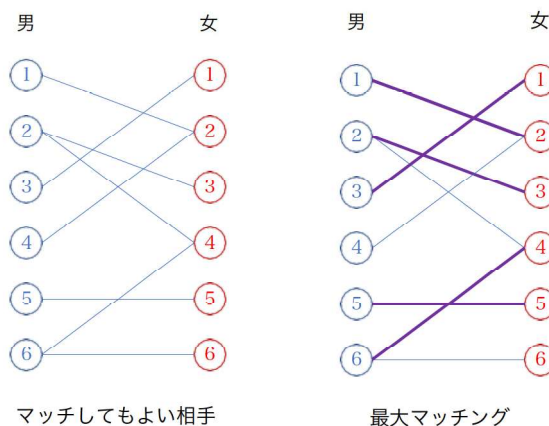
当研究室は、RDF/グラフデータやXML/HTML および CSS などの構造化データ、マッチング理論などについて研究を行っています。老若男女を問わず、意欲のある方のご参加を歓迎いたします。

RDF/グラフデータ 近年、RDF/グラフデータに対して、Shape Expression (ShEx)など記述能力の高い新たなスキーマ言語が提案されています。また、グラフデータにおいて一般的に用いられる問合せとして、パターングラフを用いたものや Property Path などの経路探索を行うものがあります。当研究室では、問合せ式が ShEx に適合するものであるかどうか（充足可能性判定）、問合せ式の包含性判定などを行うアルゴリズムを開発しています。このほか、ShEx のスキーマ進化、大規模なグラフデータの概形・要約を得る（スキーマ抽出）アルゴリズムなどについて研究しています。

XML/HTML/CSS スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています。構造的に正しいXPath 式は通常複数存在するので、グラフ理論を応用し、ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています。このほか、JSONPath やCSS の充足可能性判定、XML スキーマ進化などについて研究を行っています。

電子書籍(EPUB) EPUBファイルを含め、電子書籍の多くはXMLやHTMLをベースとしています。そのため、XMLやHTMLを扱うと同様の方法でデータの解析等を行うことができます。当研究室では、EPUB ファイルのテキストデータを解析して、その印象に合った色およびフォントの推薦やイラストを推薦するシステムなどを開発しています。

マッチング理論 マッチング理論は、様々な好み・希望を持つ人と人、あるいは人と資源との望ましいマッチングを求めるための理論で、男女のマッチングや研修医の配属など様々な領域に使われています。この理論は主に経済学の分野で研究されていますが、本研究室では、これをクラウドソーシングのタスク割当てなど、データ工学分野に応用することを目指して研究を進めています。このテーマは「理論」ですので、ある程度アルゴリズム・論理的な素養が必要になります。



ご不明な点は nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp まで遠慮なくお問い合わせください。

研究室の基本情報：

学生数：院生2名＋学類生5名

ゼミの頻度：週1回＋α、日程や形式は相談の上決定（対面が基本）

研究室：

教員：7D204/知識学類長室

学生：ユニオン3F 学系共同研究室303-2（阪口研と合同）

コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系



コミュニケーション理解研究室では、人間の言語理解の過程を明らかにしつつ、人と人あるいはコミュニティをつなぐ**コミュニケーション意図の理解**や、実社会において要求される情報へのアクセス支援について研究を進めています。

教員室: 7D-213
学生研究室: 7D-140
GPU環境: A100-80GB × 4, RTX-A6000 × 1
学生数: 12名
OB・OG: 47名

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業や自治体との研究交流を積極的に進めています。

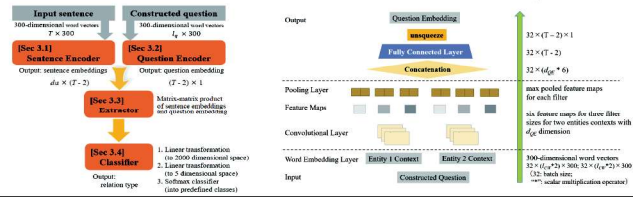
- ・台湾、フランス、韓国の研究者と SemEval-2025 において PromiseEval タスクを開催
- ・東京大学、クラスターとメタパス上のコミュニケーションの共同研究を実施中 (2025年～)
- ・国際統合睡眠医科学研究機構と不眠症、カウンセリングの共同研究を開始 (2025年～)
- ・日本システム技術株式会社との共同研究を実施 (2022年, <https://www.jast.jp/news/15159/>)
- ・国際規格開発賞を受賞 (2020年9月1日, 2019年12月17日)



社会情報アクセス支援

既存のサービスでは得られない社会情報へのアクセス

質問エンコーダを利用したCNNに基づく関係推定
(国際ジャーナル IJDL 採録, 国際会議 ICADL 2020 Best Paper Award Runner-up)



企業レポートからの環境・ガバナンスに関する公約評価
(国際会議 EMNLP 2025採録 (採択率22.16%), SemEval-2025 PromiseEval開催, 国際会議 IJCAI 2023 併設 FinNLP-MUFFIN 2023採録, NTCIR-19 RegCom 開催予定)



<https://sites.google.com/view/promiseeval/promiseeval>

音楽のジャンルと印象を用いた VOCALOID クリエータの検索 (人工知能学会論文誌 採録)
投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別
(人工知能学会誌, 第14回 W2 研究会学生奨励賞, 第14回 W2 研究会学生優秀ポスター発表賞, CEA 2017 採録, W2 研究会 第6回ステージ発表採録, DEIM 2016 優秀インタラクティブ賞)

ライブイベントに依存したトピック推移の分析
(情報処理学会論文誌 TOD 採録, ACM SIGIR 2017 採録, DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞, 平成29年度 茗溪会賞, 平成29年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

実用的レシピの判別 (CEA 2014 Best Paper Award)
印象を考慮したイラスト投稿者の検索 (ACM SIGIR 2013 採録)

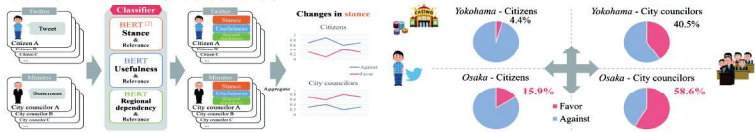
スマートソーシャルシティ

市民の声の分析を通じた行政サービスの活性化支援

市民意見と市議会議員意見の都市間比較

(国際ジャーナル IJDL 採録, 国際会議 ICADL 2022 Best Paper Award Runner-up,

令和5年度 人間総合科学 学術院長表彰)



都市を横断した市民意見の抽出

(言語処理学会論文誌 採録×2, WebDB夏のワークショップ2022 学生奨励賞, ARG 第16回 W2 研究会 優秀研究賞受賞, 令和4年度 人間総合科学 学術院長表彰, 令和2年度 情報学群長表彰)



外国人観光客のためのスキー場のアスペクトを考慮した解説文生成 (IEEE WCCI 2024 採録)
都市環境における歩行者支援のための画像説明文生成 (LREC-COLING 2024 採録)
都市別のソーシャルメディア投稿を利用した市民の性格特性分析 (ICADL 2024 採録, DEIM 2024 学生プレゼンテーション賞)
単語埋め込み表現を用いたイベント参加地域の推定 (令和元年度 情報学群長表彰)

市民のツイートをを用いた分散表現に基づく地名に対する市民の関心の傾向の可視化 (日本知能情報ファジィ学会誌 採録, 平成29年度 情報学群長表彰)
市民のツイートを分類するための関連語の抽出 (平成29年度 総代・情報学群長表彰)
外国人観光客の相談相手となりうる Twitter ユーザの推薦 (観光情報学会誌 採録, W2 研究会 第4回ステージ発表 採録, 平成27年度 図書館情報メディア研究科長表彰)

ソーシャルコミュニケーション支援

言語理解に基づく新たなコミュニケーションサービスの提供

将棋解説文の構成要素を考慮した解説文生成

(日本データベース学会論文誌 データドリブンスタディーズ採録, ARG W2 第18回研究会 優秀研究賞,

DEIM 2023 インタラクティブ優秀賞, スポンサー賞 (株式会社 LayerX賞), 令和4年度 校友会 山崎賞)



単語と文字の埋め込みの結合を利用したネットスラングの抽出
(国際会議 IALP 2022, ICADL 2021 採録)



意外性と納得感を考慮したなぞかけ生成 (令和5年度情報学群長表彰)
部首と形状を考慮した中国語の未知語処理 (IEEE IJCNN 2023 採録)
感情推定に基づく顔文字推薦 (言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞)
投稿パターンを考慮したコミュニケーションスキルの分析 (情報処理学会 第79 回全国大会 学生奨励賞)

宣伝効果を促進するための親しみやすいツイートへの言いかえ
(情報処理学会 第78回全国大会 学生奨励賞)
読者の完成を待たず・共有するためのソーシャル付箋
(電子情報通信学会論文誌 採録, 平成24年度 情報学群長表彰)
Twitter 特有のコミュニケーション表現の抽出 (平成25年度 情報学群長表彰)

知識情報システム専攻

(デジタルヒューマニティーズ研究室) 開設準備中



永井正勝 mnagai@slis.tsukuba.ac.jp

個人研究室 7D209

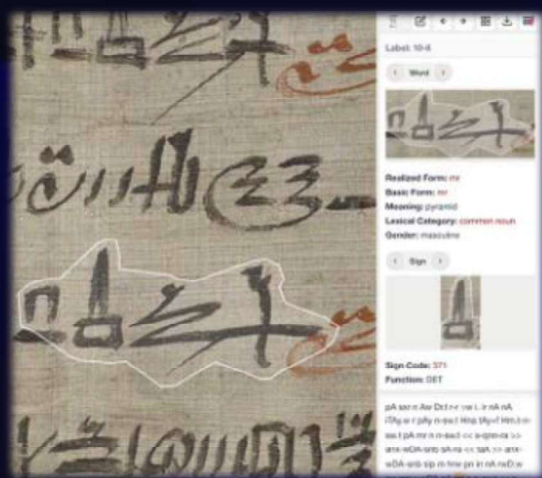
共同研究室 7C201

新任教員のため

2026年度より第一期生を受け入れます

研究分野は デジタルヒューマニティーズ (DH) です

本研究室の考えるDHとは デジタル技術を人文学資料に応用することにより 人文学とデジタル技術の双方での発展を目指す学問 となります



担当教員は 古代エジプト語（ヒエログリフとヒエラティック）の文字資料を対象とした言語学的な分析と検索プラットフォームの開発を 筑波大学内外の研究者と共同で進めています

<https://wdb.jinsha.tsukuba.ac.jp/ja>



キーワード:

デジタルヒューマニティーズ, 古代エジプト, 言語学, 文献資料, 文字, 文化資源, 博物館, アノテーション, IIIF (International Image Interoperability Framework), デジタルアーカイブ, オープンサイエンス



情報検索のアルゴリズムを研究しています。7期生募集中。

Web サイト : <http://kasys.slis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail : kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
 今年度受入人数 : 科学 0～2、システム 3 (最大 5)
 今年度在籍者数 : 学類生 5 博士前期 7 博士後期 3

教員部屋 : 7D308
 学生部屋 : ユニオン2F 共同研究会議室2
 週間予定 : ゼミ 75分 個別ミーティング (隔週) 60分
 チームミーティング 75分 論文読み会 75分

主な研究分野

本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています : 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索意図推定、知識ベース構築、知識ベース応用、Web マイニング、情報抽出、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

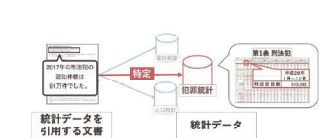
主な研究トピック

本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です :

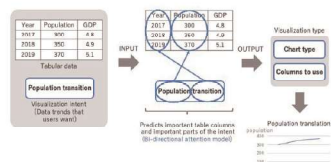
1. 大量のデータから知識を獲得するシステムを構築する
2. 知識を人が検索するためのシステムを構築する

大規模言語モデルを利用し、**機械学習**によって、性能の高い**アルゴリズム**を作り出す研究を行うことが多いです。

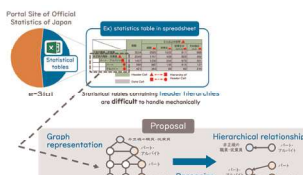
過去の研究テーマ



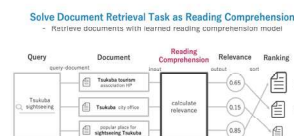
統計データを検索 : 「2017 年の刑法犯の認知件数は『91 万件』という数値の根拠となる統計データを検索



データを視覚化 : 表形式のデータに対して自動的に適切な視覚化方法を推定



表敬式データを理解する : スプレッドシート中に含まれる表形式のデータを理解し、表の見出し認識や階層構造を理解



機械読解によって情報検索する : 機械読解のモデルによって文書検索を行う手法を開発

年間スケジュール (予定)

	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
イベント																
	研究室仮配属			プロジェクト研究発表会			着手発表会				中間発表会			卒論発表会		DEIM 参加

輪講 (週 150 分)

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎 (1 月～2 月)、言語処理のための機械学習入門 (3 月～4 月)、しくみがわかる深層学習 (5 月～6 月) を使う予定です。プログラミング輪講では Python を用いる予定です。

ゼミ (週 75 分)

自分の近況などを紹介する時間です。

個別ミーティング (隔週 60 分)

基本的に 1 対 1 で研究の内容について議論する時間です。

チームミーティング (週 75 分)

3 チームに分かれてチームごとにミーティングします。

論文読み会 (週 75 分)

1 時間程度で論文を読み、残り時間で議論する会です。

プロジェクト研究発表会

メンターに助けられながら基礎的な研究プロジェクトに参加し、その成果を学内または学外で発表してもらいます。

DEIM 参加

国内で開催される学会。基本的にみんな出して発表します。

阪口研究室とは？

～快適な情報の共有や伝達を求めて～

どんなことをやるのか？

- 今使っているシステムは快適ですか？
 - そうでないなら改善を目指そう！（あくまでも卒研の一環として）
- 快適なアプリの構築を！（構築作業も快適にしたい！）
 - 最近はLinked (Open) Data の利活用を中心にしていますが、それに限りません
 - 情報の共有や伝達を支える技術を念頭に
 - 情報の共有や伝達を快適に行う（大目標）
 - そのために様々なアプリケーションシステム（アプリ）が構築されている
 - 「快適」には「安全」も含まれる（結果として「安心」も得られる）
 - 外部サービスに頼らず、Webブラウザ内で入門者向けプログラミング環境を
 - 最近はWebAssemblyにも少し注目中（かつての言語屋魂:-）

最近の主だったテーマ例（他研究室と共同のものもあり）

- Linked (Open) Data の開発・接続・検索（発見）の支援
- Linked (Open) Data の整備・拡充への Crowdsourcing 利用
（これまでのテーマ例は下記の3年生向けWebページをご覧ください）

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！

電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

- ゼミ等: 週一全体ミーティングが通例(+個別指導等)
（学類ゼミは1～4名程度、大学院生ゼミ0～2名程度の体制）

氏名: 阪口 哲男

Webページ: <https://www.sakalab.org/>

（3年生向けWebページはここからリンクします）

Eメール: saka あっと slis.tsukuba.ac.jp

研究室: 7D312（春日エリア7D棟3階）

共同研究室: 情報メディアユニオン棟3階7F303-2

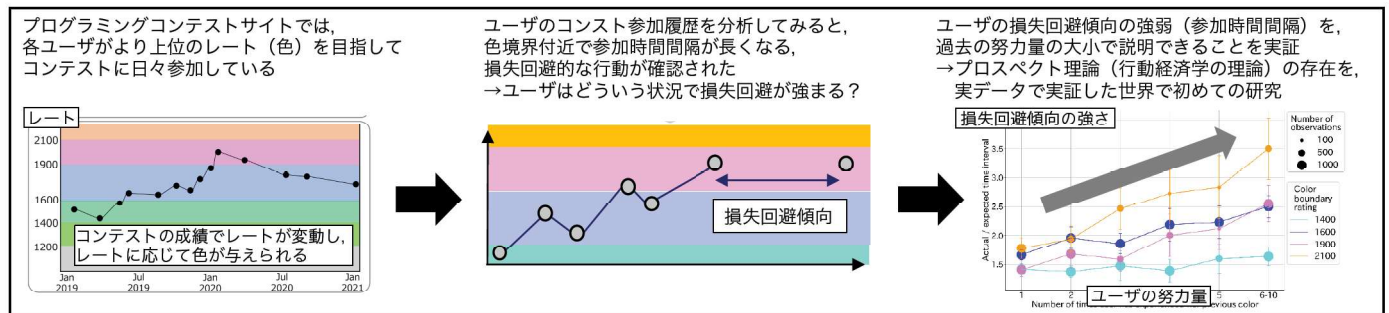
（学系共同研究スタジオ3）



山本研究室の紹介

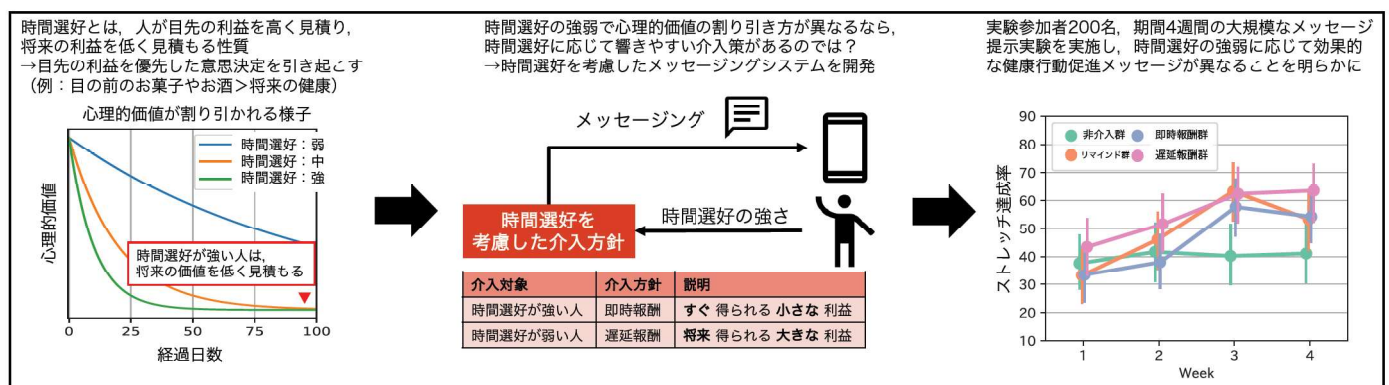
本研究室は、観測可能な人の行動データを対象に、①データ分析による行動原理の解明、②機械学習を用いた行動モデルの構築、③人の行動変容が可能な介入戦略モデルの研究に取り組んでいます。以下は研究テーマの例です。

①行動経済学の知見に基づく行動原理の解明：私達はなぜ、数量限定の商品に惹かれたり、べ切間近まで仕事を先延ばしにしてしまうのでしょうか？その理由の1つは、私達が**認知バイアス**を持つためであると考えられています。認知バイアスとは、先入観や直感に頼って非合理的な意思決定をする心理傾向のことです。では、認知バイアスはどんな状況で発生しやすいのでしょうか？この研究では、人の「行動」や「状況」をデータとして収集し、データ分析と行動経済学の知見を組み合わせ、認知バイアスの発生傾向を定量的に明らかにすることを目指します。



②機械学習を用いたマルチモーダルデータ分析技術：人の行動予測や理解は、多くの産業分野で重要な技術です。例えば、交通の分野では人流予測によって混雑の回避策を検討できます。人の行動は**マルチモーダルデータ**として蓄積されます。マルチモーダルデータとは、テキストや画像、センサなど複数のデータ形式が組み合わさったデータ集合のことです。この研究では、マルチモーダルデータに対して、機械学習を用いてそれぞれのデータを適切に処理し、データ間の相互作用を最大化することで、人の行動予測や理解を実現する基礎技術の開発を目指します。

③認知バイアスを考慮した個人適応型介入策の策定：①でも述べたような人の不合理な行動は、どのような方法で良い方向に変えることができるのでしょうか？方法の1つとして、Nudgeという介入策が知られています。Nudgeとは、認知バイアスを利用して人々の行動を無意識に導くための手法で、特定の選択をするようにさりげなく促すものです。現状、多くのNudgeは人々に対して一律の介入方針を提供します。この研究では、より効果的に人々の行動を変容するため、個人の**認知バイアスの強弱を考慮したNudgeシステム**を構築することを目指します。



研究室の基本情報

研究キーワード：行動モデリング、機械学習、データ分析、マルチモーダルデータ、行動経済学、行動変容

今年度募集人数：システム3名+科学2名、現在の学生数：学類生5名+大学院生3名+研究生1名

ゼミの頻度：個別打ち合わせ（60分/毎週）、全体打ち合わせ（60分/隔週）

対面とオンラインを併用します。打ち合わせの日時は、学生と相談の上決定します。

教員研究室：7D504、学生研究室：7D140

教員連絡先：syamamoto [at] slis.tsukuba.ac.jp

時井研究室

情報の**可視化**をテーマに研究をおこなっています

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2024 年度 AR + 絵画鑑賞、知識集約、身近な科学、探究的学習、Kinect + 浮世絵、オノマトペ、調理 + 論理的思考、数学的リテラシー、可視化支援、スポーツ + 可視化支援、データリテラシー + 地理情報、統計学 + AR、ジャーナリズム + AR、ランニング + データ解析、データリテラシー + 批判的思考
パラドックス + AR、浮世絵を読み解く、空手 + ことば、浮世絵 + 物語 or 歴史 or 数学
2025 年度 バレーボール、プログラミング、AR + データサイエンス、浮世絵 + 歴史

バレーボール

ジャンプの姿勢は？

プログラム

作成中の思考は？

データから

傾向を読み解くには？

江戸から明治

暮らしの変化は？



年間スケジュール

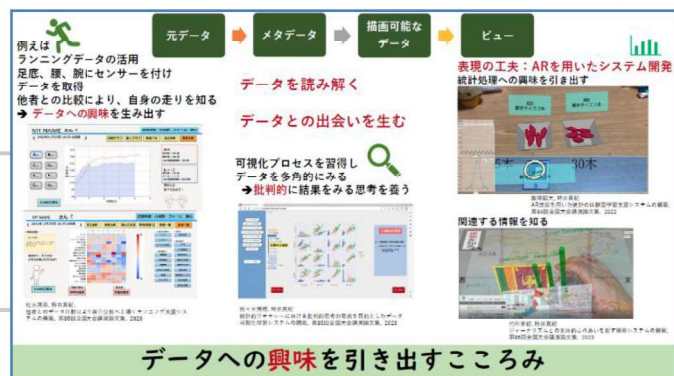
- 10 月 オープンラボ
- 12-2 月 基礎勉強、研究調査、
- 3 月 研究会等で研究調査
- 4 月～ システム開発、実験、論文執筆
- 3 月 学会発表



どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。などなど、デモ展示を見て、これからの卒業研究をイメージし、テーマを具体化していきます。



図書館との展示



グラフによる表現、ARを用いたインタラクティブな操作により興味を引き出す試み など

金宣経研究室 人間・情報・技術研究室

- ・ 指導教員：金 宣経 (きむ せんきょう)
- ・ 教員部屋：7D315 / 共同研究室：7D330
- ・ 現在のメンバー：学類生 5 名、博士前期：3 名
- ・ 連絡先：kimsun@slis.tsukuba.ac.jp



研究テーマ

下記の研究テーマを主な対象としています。

インタラクションデザイン、
インターフェースデザイン、ユーザー経験 (UX)、
学習支援、情報リテラシー

これまでの代表的な卒論

2024年度

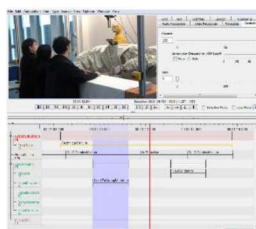
1. 信頼性判断をサポートする検索システムの提案
- 情報探索行動の変化を中心に -
2. 感情の可視化および感情認識に関する研究
3. 情報リテラシーの理解を深めるためのゲーミフィケーションシステムの提案

2023年度

1. 人からヒューマノイドロボットへの説明時に現れるジェスチャーに関する研究
2. 情報の信頼性判断におけるインターネット検索の意義
3. eスポーツプレイヤーに向けたチーム内フィードバックシステムの提案

主な研究手法

1. 人を対象にした実験
2. 行動分析
3. 生体信号計測
4. アイトラッキング



受入人数

知識情報システム主専攻 4名

受け入れの条件

1. 研究計画書を提出すること。
2. 面談をすること。
3. オープンラボの説明会に参加すること。
4. 秋C「Human-computer Interaction (英語の授業)」を受けること。

年間スケジュール

1～3月：基礎勉強、卒研計画
4～5月：論文読みゼミ
6月：着手発表会
7～9月：倫理審査申請、データ収集
10月：中間発表会
10～11月：論文書きゼミ、データ分析
12月：卒論初稿完成、学会への投稿
翌年1～2月：最終発表会、論文最終版、学会参加

ゼミ

週1回、2時間程度で行います(休暇期間を除く)。
ゼミでは、研究に必要な知識とスキルを身につけていきます。主に先行論文や自分の研究データをもとに話し合う形式です。

週間報告・フィードバック

週1回、研究の進捗や読んだ論文、得られた成果などをメールで報告し、フィードバックを受けます。

個別ミーティングについて

月1回 30～60分

1対1で研究や進路について話し合います。急ぎの相談がある場合は、追加でミーティングをリクエストすることもできます。



陳研究室 GROUP DECISION & INTERACTION LAB

研究分野 (WHAT WE STUDY)

AI×ミーティング科学/協働支援。3つの視点（設計・運用・評価）から、会議やチームワークにおけるAIの役割を探究。問題解決（problem solving）と課題複雑性（problem complexity）を軸にタスク化及び介入設計を行います。

研究で作るもの (WHAT WE BUILD)

- Facilitation Systems（発話・時間・合意形成を支える仕組み）
- Inclusivity（誰もが参加しやすい会議設計）
- Cross-Cultural Systems（文化差に強い設計）
- Presenting Information（意思決定に効く可視化・提示）

指導スタイル (MY STYLE)

- 共創・実験・論文の実践サイクル/毎週小さく前進（0.5ページ進捗+To-Do）
- 再現可能性重視（記録・コード・データ整頓：Overleaf/Git/ログ管理）
- エシックス優先（研究倫理・個人情報保護・合意手続）
- 可視化・物語化で伝わる研究へ（図表・ダッシュボード）
- 日英両言語対応（英語アブストラクトからポスター及び論文まで伴走）

テーマ例（参考）

- 課題複雑性×AI介入：複雑度（低/中/高）による効果検証
- セルフファシリテーション用カード/UIの設計と評価（色・音）
- 発話キーワードネットワークにもとづく広がり・強度・多様性の指標検討
- AI介入の受容性・規範意識
- アクセシビリティ：吃音の開示が面接評価に与える影響

このような人と相性 (WHO THRIVES HERE)

- 英語論文を読み、意欲的・主体的に調べ、記録ができる人
- Python又はRで分析・可視化に挑戦できる人（未経験歓迎）
- 多様な背景の人と日本語又は英語で建設的に対話ができる人

発表機会

- 人工知能学会 全国大会 (JSAI), ヒューマンインタフェースシンポジウム (HIS), ACM CHI (Human Factors in Computing Systems), ACM CSCW (Computer-Supported Cooperative Work and Social Computing), IEEE SMC (Systems, Man and Cybernetics), AHFE (Applied Human Factors and Ergonomics)

応募方法・選考 (HOW TO APPLY)

1. 件名「研究室配属希望」でメール（×切：学内掲示参照）
2. 本文：関心分野/暫定テーマ/進路計画/英語論文への意欲（600-800字目安）
3. 面談：約15-30分（オンライン可）

必須：研究倫理遵守・期日厳守・週1ゼミ参加（時間割確定後に調整）

選考：定員超過時には、具体性・実現可能性及び分野バランスで決定



■ 研究室について

2017年に立ち上げた Human-in-the-loop Big Data & AI の研究を進める研究室です。2020年からデータマイニングを専門とする新任の伊藤寛祥先生がメンバーに加わりました。

防災、健康、教育、環境、飢餓、貧困・・・人類が直面する困難な問題を解決するために、人々と計算機の知を結集して立ち向かわなければなりません。本研究室では、人類が史上初めて手に入れた、数十億規模の人々と AI のネットワークを活用し、これらの協力により創出される「融合知能」をデザインする科学技術を確立します。研究のための研究を行うのではなく、世界的な研究成果を出しながら、成果を活用したプラットフォームを自ら開発し、様々な領域の専門家と協力して、これまで諦めていた問題の解決とよりよい社会を実現することを目指します。

■ 研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

Human-in-the-loop(ヒューマンインザループ)とは機械が得意な作業と人間が得意な作業を組み合わせて問題を解決する考え方です。今後の社会をデザインする重要なキーワードとして注目を集めています。本研究室では、ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています。

自然災害発生後の被害状況を即座に把握する

世界遺産・被災地の記録を未来に残す

障害者と健常者の共生社会を作る

みんなの力で真実を発見する

AI と群衆が教え学び合う

皆の力を合わせてアプリを作る

市民の意見を集約して市政に貢献する

漫画がより楽しめるようコンテンツを活用する

クラウドソーシング・ヒューマンコンピューテーション

ビッグデータ・データサイエンス

ソーシャルネットワーク分析

データマイニング

ソフトウェア工学

プログラミング言語設計

データベース

人工知能・機械学習

人間工学・認知心理学

HCI・ヒューマンインタフェース



クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」や「フィールド実践」を研究することが特長です。研究テーマの決め方はプロジェクトを引き継ぐ、新たに与えられる、自ら提案するなど様々です。

■ 主な活動

ゼミ週3時間(研究,文献調査,開発),個別ミーティング週1回,勉強会随時,合宿,国内・海外学会発表

■ 過去の主な進路

Amazon Web Service Japan, ウェザーニューズ, SCSK, NSSLC サービス, NTT 研究所, NTT コミュニケーションズ, NTT データ, NTT ドコモ, オールアバウト, キヤノン, クックパッド, コーエーテクモゲームス, 高校教員(情報科), サイバーエージェント, 新日鉄住金, ソフトバンク, DMM, トーアエイヨー, 日本 NCR, 日本マイクロソフト, 野村総合研究所, アクセンチュア, Preferred Networks, 日立製作所, PWC, 富士通, マックスプランク研究所, みずほ情報総研, LINE ヤフー, 楽天, リクルート, ワークスアプリケーションズ, 日本経済新聞社

■ 詳細情報

説明会詳細は研究室 Web サイトに掲載します。募集人数: 創成学類 2 名, 知識学類 4 名程度

面談問い合わせ先: fusioncomplab-staff@ml.cc.tsukuba.ac.jp (森嶋・伊藤) <https://fusioncomplab.org>



2025 Is Digital Nature Group 10th Anniversary!

Digital Nature

計算機自然は、人と機械、物質と実質の間に多様な選択肢を示す

Undergraduate Student Wanted!

デジタルネイチャー研究室へようこそ

デジタルネイチャー研 卒業研究生の募集

seamless combination of computational resources
and non-computational resources

配属予定人数:

知識情報システム専攻2(情報メディア創成学類6)

Faculty Member

在籍する教員



落合 陽一

Yoichi Ochiai

実世界志向コンピュータグラフィクス、
ヒューマンインターフェイス、メディアアート



伏見 龍樹

Tatsuki Fushimi

音響浮揚、波面ホログラム、非線形力学



李晶晶

Jingjing Li

コミュニケーションデザイン、デジタル展示、
デジタルメディアに対するユーザ評価

テーマは教員とゼミ生のディスカッションの上、学生が希望するテーマを1から考えます。その際に、世界的なメディアアートイベントやトップカンファレンスに通じ得る程度のインパクトがあるテーマになるまで吟味します。

指導可能な研究領域

- ・ バーチャルリアリティ/オーグメンテッドリアリティ
- ・ ヒューマンインターフェース
- ・ コンピュータグラフィクス
- ・ 視覚・聴覚・触覚ディスプレイ
- ・ エンターテインメントコンピューティング
- ・ メディアアート
- ・ バイオアート/バイオフィブリケーション
- ・ テレプレゼンス
- ・ デジタルファブリケーション/マテリアル

過去の卒業研究題目(知識情報システム専攻卒業生のみ)

- ・ Impression of the sound of rain hitting umbrellas
- ・ Proposal of a new meat cooking method using High-intensity focused ultrasound(HIFU)
- ・ MeDaCA: Method of Direct Manipulation and Conditions for Acoustic Tweezers Grasping Medaka
- ・ イテレーティブデザインを用いたロービジョン者の買い物支援方法の検討
- ・ 視覚障害者のための情景説明
- ・ マイク・イン・ザ・ループによる音響ホログラムの最適化
- ・ Goshuin 2.0 –Construction of the World’s Largest Goshuin Dataset and Automatic Generation of Goshuin with Neural Style Transfer–
- ・ Blind Badminton — System Development to Recognize a Flying Object without Vision —

Digital Nature Group all rights reserved.

選考方法は次のページへ →

選考方法

やる気と実装能力を考慮して選考します

テーマは教員とゼミ生のディスカッションの上、学生が希望するテーマを1から考えます。その際に、世界的なメディアアートイベントやトップカンファレンスに通じ得る程度のインパクトがあるテーマになるまで吟味します。

研究をすすめる上で学生に求める条件

- 01 研究へのやる気・継続意思がある
 - 02 研究を好み、毎週進捗がある
 - 03 困ったら質問・相談できる
- ・本研究室はトップカンファレンスやトップジャーナル、メディアアートの世界的な展示、それらの社会訴求によるインパクトを目指して一丸となっている研究室です。やる気があって研究が続けられることが条件です。
 - ・学生に求められる姿勢は、研究を好むことと、毎週自分の研究テーマについて少なくとも5分間報告できることの2点です。
 - ・コミュニケーション能力が高く、わからないことを質問できる、一人で悩まず誰かに相談できる能力が高い人が望ましいです。

卒業研究生への研究サポート

メンター制度

ひとりひとりにメンターがつきます。分野の近さや個人の能力など総合的な観点から担当の先輩を決定します。研究活動だけでなく私生活についてなどなんでも相談できる頼りになる存在がいます。



学生間での自主ゼミ

学生の自主的に研究する能力を鍛えることを目的に学生同士での相互チェックが大事にされています。分野別学年別などで自主的にゼミを開催し、定期的に相互チェックをしています。



フレックスな研究環境

研究室にはコアタイムがありません。そのため、自分の生活スタイルに合わせて研究することができます。完全フルリモートの人もいれば、毎日住み着いているような人もいて、自由です。



[Digital Nature Group HP/NEWSにて公開される
\[デジタルネイチャー研への卒業研究室配属について\(2025\)\]を必ずご覧ください。](#)

※より詳しいゼミ形式や現役生からのメッセージなどを掲載した研究室紹介パンフレットが公開されます！

機械学習・言語理解研究室 (若林研究室)

指導教員：若林 啓 (7D207)

メンバー構成：8名 [D1:2, M2:1, M1:3, 創成:2] ※2025.10現在

学生研究室：情報メディアユニオン棟4階 客員研究室 (403)

研究室 web サイト：<https://tzkwkblab.github.io/wkblab/>



研究テーマ

本研究室が明らかにしようとしている問いは、「言語を理解するとはどういうことか」です。この問いに答えるために、機械学習の計算機シミュレーションによって、人間以外の動物のコミュニケーションの方式から人間の言語に進化するまでの、失われた段階を計算論的に解明する研究を進めています。自然界をモデル化した仮想環境を設定して、その中に機械学習エージェントの集団を置き、環境や他エージェントとのインタラクションを通して学習を行わせます。そのダイナミクスの中で、彼らはコミュニケーション方策を学習したりしなかったりするのですが、どのような環境条件や過程の中で「言語らしい」性質を持つコミュニケーションが創発するのかを研究します。また、このような研究を通して得られた知見が、どのように言語を扱う人工知能技術の発展に活用できるかを考えます。

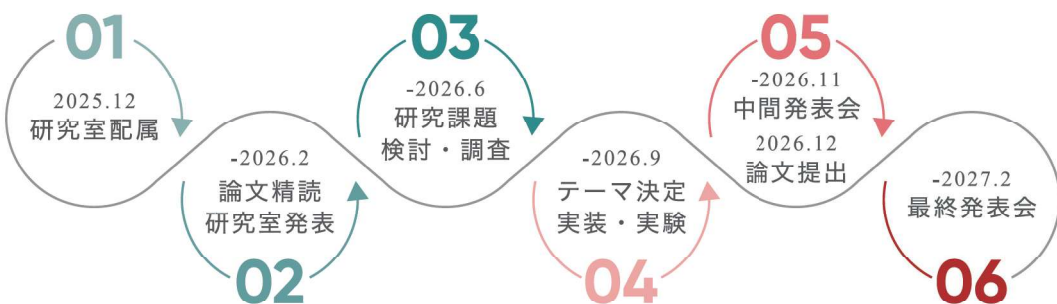
研究室の見どころ

- 最新のマルチエージェント強化学習技術について学べます。
- 機械学習の中でも、特に強化学習手法を学べます。
- 自由な雰囲気の研究課題に取り組めます。
- MacBook (貸与)、計算用サーバが利用できます。
- Slack や GitHub を活用した環境です。

研究をすすめる上で望ましい条件

- 実装力がある、あるいは実装力を身につけたいという熱意がある。
- 必要なら数式にも立ち向かえる。
- 生物のコミュニケーションや言語の起源に興味がある。
- 他のメンバーと協力して研究に取り組める。
- 英語の論文を読むことに強い抵抗がない。

研究室配属から卒業までのスケジュール (予定)



- 週2回のオフィスアワー (13:00-16:00) を実施しています (長期休暇期間は任意参加)。
- 学会発表 (JSAI, DEIM) を積極的に目指します。

過去の卒業研究テーマ例

- マルチエージェント強化学習環境下でのコミュニケーション創発過程に関する研究
- 深層強化学習を用いた集団創発言語において遺伝的進化が及ぼす影響
- 個々の個体のスキルのサンプリングに基づく文化進化モデルの分析

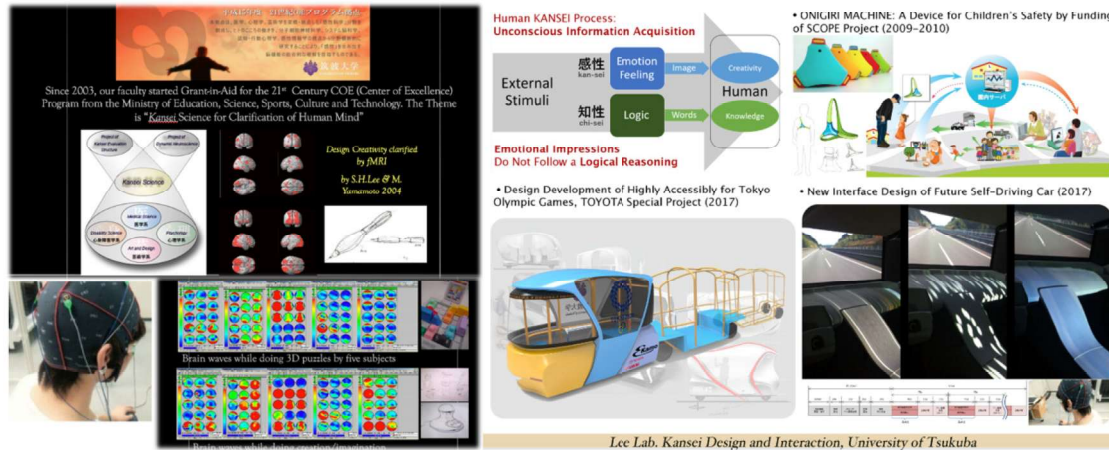


JSAI2025 (ポスター発表) の様子

配属希望の方へ

- 指導教員との個別面談を経て選考、配属となります。面談に関する情報は、研究室サイトをご覧ください。

- オープンラボ日程：2025年10月14日 (火) 14:30 ~ (情報メディアユニオン棟4階403へ直接お越しください) 26



Kansei Design LEELAB.は、2002 年からこれまで博士後期修了7名、博士前期課程修了21名、学群卒業32名の指導をしてきました。現在は、博士後期課程1名、博士前期課程3名、研究生5名、交換留学生多数を指導しています。

卒業・修了生の進路: Team Labo, Apple Siri Shanghai, 三菱自動車, マツダ自動車, ホンダ自動車, ゼーブラ, Panasonic, 女子美術大学, 阪南大学などです。

LeeLab.の研究テーマ:「人間の認知行動の可視化による感性の働き」であり、感性デザイン学、感性情報学、感性認知行動、感性メディア、Human Computer Interaction 分野など人間の感性と行動に関わる幅広い研究分野を指導しています。

卒業指導: 1～2名

研究室ゼミ: 毎週1回3-4名(発表順あり)の研究進捗報告、全員でコメントを行います。発表の無い学生も5分程度の進捗状況の報告があります。基本的に大学の卒業論文提出日程に合わせて進行します。留学生は英語で発表する場合があります。英語の会話実力をつけたい学生は大歓迎です。

研究室の環境: 総合研究棟D (校内カスミストアの前) 501～503。天久保池と桜の展望あり。

研究室の設備: 3D プリンター (2台) レーザーカッター (大型1台) 電子工作可能な工房あり。

現在、研究室の学生たち(主に修士と博士の一部)の研究テーマです

- Third place visits and associations with walking habit formation: An exploratory study extending Cognitive Chrono-Ethnography サードプレイスと歩行習慣の形成の関係性: 認知的クロノエスノグラフィを用いた探索的研究
- Exploring the Effects of Participatory Algorithmic Management Supported by Affective Computing User Interfaces on Worker's Wellbeing 感情コンピューティング・ユーザーインターフェースを用いた参加型アルゴリズム管理が労働者の幸福度に与える影響の探索的研究
- Verification of a Bidirectional Haptic Communication Device with Thermal Feedback 熱フィードバックを備えた双方向触覚通信コミュニケーションデバイスの検証
- Examining the Significance of Personality in Multimodal Imagery Cognition: An Investigation of the Visuo-Haptic Mental Imagery of Painting Majors 視覚的情報の多感覚処理におけるパーソナリティーの影響に関する調査—絵画を専門とする学生の視触覚メンタルイメージを中心に—

※これまで研究室で行った大型研究プロジェクトの事例です。

「認知的クロノエスノグラフィに基づくエンタテインメントプロダクトのデザイン構成法」 科研費
 「子どもの安全・安心のための域情報共有システムの研究開発」 総務省ICT SCOPE プロジェクト
 「行動選択・記憶に関する認知行動科学理論に基づいた適応的問題解決能力涵養環境の構築」 科研費
 「次世代の車両開発における五感に対する刺激」 トヨタ合成株式会社、東京モーターショー展示
 「高度アクセシブル社会実現に向けた基盤研究」 トヨタ自動車&筑波大学特別プロジェクト

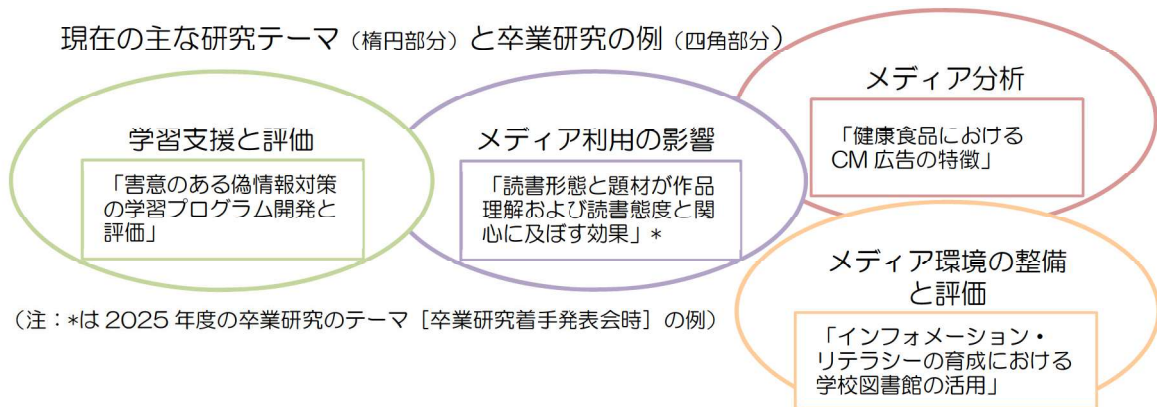
研究室紹介 鈴木佳苗研究室



鈴木佳苗研究室では、さまざまなメディアを活用して行う学習支援と評価、読書を含む個人のメディア利用とその影響、メディアが伝えるメッセージの分析、個人の生活や学習などを豊かにするメディア環境の整備と評価などに関する研究を行っています。

このような研究テーマに関心がある人は、卒業研究指導方針を確認し、ご連絡ください。

現在の主な研究テーマ（楕円部分）と卒業研究の例（四角部分）



- 卒業研究のキーワード：読書、メディア、メディア教育、情報教育、学校図書館、公共図書館、調べ学習、探究学習、学習過程、自由研究、リテラシー、社会性など
- 主な研究の方法：調査、実験、内容分析など
- 主な研究対象者：幼児、小学生から大学生、保護者、学校関係者、図書館関係者など
- 2025 年度研究室学生：学類生 2 名（情報資源経営主専攻）・大学院生 5 名
- 募集人数：情報資源経営主専攻 3 名

■ 研究室 Q & A

Q1. ゼミ・学生研究室について

A. 週に 1 回ほどのペースでゼミを行っています。ゼミ開催日は相談して決めます。学生研究室は 7D130 室です。

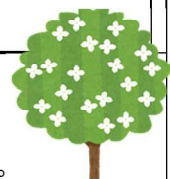
Q2. 研究のスケジュールについて

A. 以下のようなスケジュールで卒業研究を進めていきます。

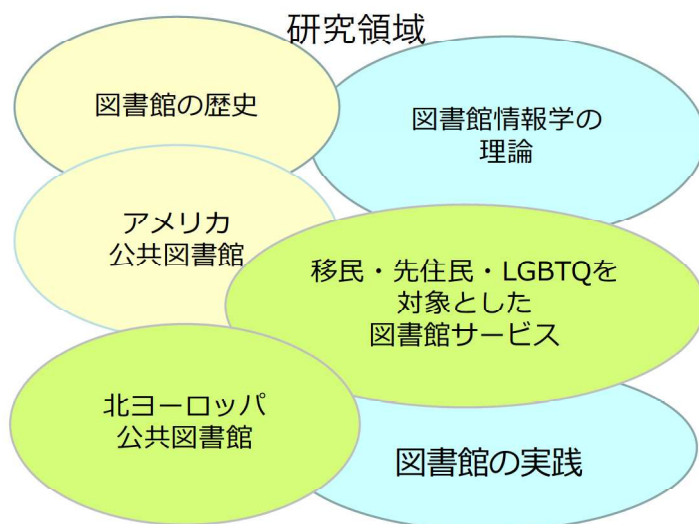
12 月～6 月まで	6 月～	1 月
- 自分の関心のあるテーマに関連する文献を調べつつ、ゼミ全体で研究の方法について学ぶ - 卒業研究の目的と方法を定める - 卒業研究着手発表会（6 月）	- 卒業研究のデータ収集・分析方法などを進める - 卒業研究中間発表会（10 月） - 卒業研究の執筆	- 卒業研究提出 - 卒業研究最終発表会

Q3. 現在行っている研究について

A. 学習支援に関する研究プロジェクトを進めています。学習プログラムを開発し、その効果の検討などを行っています。研究プロジェクトへの参加も可能です。学生と一緒にオーディオブックを用いた研究なども行っています。



研究室紹介 吉田右子（研究室410） yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



現在の研究関心

- 社会的に孤立した人びと・不利な立場に置かれた人びと：移民・難民、先住民、LGBTQ、経済的困窮者、非識字者
- 研究方法：資料調査・フィールドワーク
- 研究課題：文化的格差の解消にかかわる公共図書館の可能性



卒業研究の領域と研究方法

- (1) 生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究
- (2) 公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的な研究



これまでの卒業研究

詳しくは卒業研究指導方針のリストをどうぞ！

- セクシュアル・マイノリティの子どもを対象としたアメリカの公共図書館サービス
- スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて
- オーストラリアにおける先住民民族に対する公共図書館サービス
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- アイヌ文化継承活動の現状と課題



研究室配属から卒業論文提出まで

12月	研究方法について学びます
1月	研究テーマについていろいろな角度から検討して研究のフレームを固めていきます
2月	先行研究の調査【ゼミ内発表会】
3月	研究テーマの確定
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月・8月	本調査
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

Copyright

著作権法の研究室

今では著作権はとても身近なものになりました
私たちの日常にも関わる著作権法について、
興味のある方は一緒に考えてみましょう

まずは関心のあるテーマを考えてみてください

テーマ決めやゼミのことなどについては、
卒業研究指導方針を参照してください
質問などがあれば、
遠慮なくメールで連絡してください

ゼミは、研究生や大学院生がいる場合は合同で行います。著作権法の基礎を確認してから（目安：12月～3月）、各自のテーマに関連する資料の発表をしてもらったり（目安：春AB頃まで）、自分の卒業論文の一部を発表してもらう（目安：春C以降）という形で進めます。着手・中間・最終発表会の前には、発表資料の確認や発表練習を行います。9～10月頃までに論文の初稿を完成させることを目指し、11月～12月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージで進めます。

専門科目「知的財産権論A」（秋AB）は、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶため、卒業研究を行ううえでも基礎になります。知的財産法分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

テーマの例：

- ・図書館と著作権法
- ・AIと著作権
- ・著作権法に関する裁判例

指導教員：村井麻衣子



研究領域：図書館のマネジメント・ガバナンス

図書館および類縁機関が、知識や情報をどのように管理し、どのように市民に提供するの、それらにより社会の課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）・(2)図書館（経営）・(3)市民（図書館の利用者）・(4)図書館を支える理論の切り口から、実証的あるいは理論的な研究をおこなっています。

10月中旬、実施！
オープンラボ

近年の研究テーマ

多彩



MEMBERS

博士後期：8名
(社会人6名)
博士前期：7名
学類4年：5名

活動

- ◆ ゼミ 月1～3回
- ◆ 個人面談 月1～3回
- ◆ 合宿 年2回(3月・9月頃)
- ◆ 学会参加 希望者は随時
- ◆ 慰労会等 年3～4回

進路

大学院進学・公務員(司書・行政)・民間等

雰囲気・スケジュール

- ◆ 学生同士の関係はとても和やかです。研究室のセンターテーブルを囲んでの談笑もしばしば。
- ◆ ゼミでは活発に議論が行われ、研究や発表内容の課題を指摘しあうことで論理的な思考が鍛えられます。
- ◆ 3年生は配属後、研究法に関する入門書の輪読等を通して基礎知識を学びます。その後、3月中に卒業研究のテーマを定め、4月以降本格的に卒業研究に取りかかります。研究は個人面談を中心に進みますが、卒業研究の発表1か月程前から複数回開催されるゼミの質疑応答で、内容をさらに精錬させていきます。

小泉研究室

“図書館と地域の未来を
共に創造しましょう。”

✉ 連絡先
koizumi@slis.tsukuba.ac.jp

配属

合宿

共同研究

着手

合宿

中間

卒論提出

研究テーマ決定

各自研究を進める

論文執筆

アーカイブズ学研究室

指導教員プロフィール

バーリィシェフ、エドワード (Eduard BARYSHEV)

7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

学生研究室 情報メディアユニオン 407-1 号室（白井先生と共同）

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録、②上記の記録が保存されている機関および施設

研究領域

- ・ アーカイブズ学理論全般
- ・ 各国の記録管理と文書館（記憶継承施設）
- ・ 各国のアーカイブズ文化とアーキビスト教育
- ・ 保存記録の管理・利用に関わる諸問題
- ・ 記録媒体と情報処理
- ・ 歴史記録（アーカイブズ）と史料論
- ・ アーカイブズの政治的・社会的な機能性

卒業論文例

- ・ 現代ドイツにおけるアーキビストの養成制度
- ・ 文書館における展示活動に関する研究
- ・ 文書館建築の認識に関する研究—イタリア共和国を事例に—
- ・ カザフスタンの文書館制度
- ・ 震災伝承施設の機能と課題—アーカイブズとの関係を中心に—
- ・ 災害に関する動画資料の収集と利活用



指導方式

- ・ 隔週、ゼミ方式の授業（2 時間程度）を行う他、個別に相談できる時間を設けます。

記録遺産に関心をもち、過去、現在および未来におけるドキュメントの在り方について学び、国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!



保存記録（アーカイブズ）の管理および利用の様子（英国国立公文書館、ロンドン）



研究室概要

図書館情報メディア系 **小野 永貴（おの はるき）**

- ・ 専門分野： 学校図書館、情報教育、図書館情報学 等
- ・ 教員研究室： 7D114室
- ・ 教員連絡先： milkya@slis.tsukuba.ac.jp
- ・ 学生研究室： 7B240共同研究室
- ・ ゼミ形態： 原則週1回（長期休暇中などは長めのゼミを不定期実施）

本研究室が扱う研究領域

人々は学習するとき、本や論文など何らかのメディアを利用しながら学びます。特に中高生の場合、デジタル教科書や授業映像といった電子媒体も、重要な学習メディアとなります。

現在の中学・高校で行われる探究学習は高度化しており、これらの多様なメディアを駆使して学ぶことが、中高生には求められます。しかし、これは大変難しいことで、誰もが最初は不安を抱えるものです。

この不安を解消し、中高生が安心して探究成果を生み出せるようにするには、よりよい指導法の確立や支援システムの構築が望まれます。

本研究室では、この実現に必要な基礎データや要素技術を明らかにすべく、様々な学校現場と連携しながら実践的な研究を行っています。

（筑波大学の附属校や各地の私立/公立学校と連携研究を実施してきました）

キーワード

学校図書館
本棚・書架・展示
高校「情報科」教育
情報リテラシー教育
探究学習支援
中高生への引用指導
研究倫理・情報倫理
図書館不安・研究不安
ビブリオバトル

今年度のメンバー募集

本研究室は2022年度に設立された研究室で、今回は第5期の募集となります。小規模な研究室ですが、他研究室との合同活動や学会発表を推進し、対外的な研究交流を重視しています。これらも含め、研究室活動に前向きに関わって下さる皆様を歓迎します。詳細は「卒業研究指導方針」を必ずご覧のうえ、事前面談にお越しください。

<募集人数> 情報資源経営主専攻：定員3名 / 知識情報システム主専攻：2名以内

特に今年度は、以下の関連テーマに関心をもつ方を、重点的に募集します。

1. 中学・高校の探究学習における研究倫理指導・研究発表指導：実態調査と教材開発
2. 中高生は探究学習でどのようなトラブルに遭遇するか：不安と不正の発生過程の解明
3. 探究学習を指導できる司書教諭の養成：現在の司書教諭課程の課題とは？
4. 高校の教科「情報」の研究：大学入学共通テスト導入の影響、次期学習指導要領への議論
5. 知的書評合戦「ビブリオバトル」に関する研究：書評が育むコミュニティとは？
6. 学習テーマに応じて書架を動的に再現する図書館のバーチャル展示開発



高良研究室

○ゼミの概要

高良研究室は情報法分野を研究する研究室です。

情報法領域は、情報通信技術と法に関するICT法の領域、メディアと法に関する領域、情報保護や情報の利活用と法に関する領域です。

情報法に関する領域であれば、幅広く研究可能です。

○募集人数

3人（最大5人）

○ゼミの頻度

ゼミは原則週1回です（プレゼミ・卒研ゼミ共通）。現在、日時は固定せず、ゼミ生と日程調整を毎回行っています。少人数の場合は柔軟に対応します。

○これまでの卒論テーマ

高良研究室は2021年度から始まった新しい研究室です。これまでのゼミ生の研究テーマは、名誉毀損、情報公開法、個人情報保護法、AIと法、メタバースと法、ヘイトスピーチ、児童ポルノ規制などです。

○卒論指導方針

プレゼミでは法律文献に慣れてもらうために、法律論文の輪読を行います。

4月からは、各自文献調査を行ってもらい、毎回ゼミで進捗状況の確認と指導を行います。希望に応じて個別指導を行います。

○指導教員：高良幸哉

2020年1月から筑波大学勤務

研究テーマ：刑事法（サイバー犯罪・児童の権利保護など）、情報法（情報通信技術と法、情報保護など）

○連絡方法

高良にアポイントを取る必要がある方は、takara@slis.tsukuba.ac.jp までご連絡ください。

1. 研究分野

- ・ユニバーサルサービス, 障害者サービス, 高齢者サービス
- ・インクルーシブなコミュニティ形成
- ・（図書館に限定しない）人（行動や認知, 心理）と情報の関わり

関連するキーワード

図書館, ユニバーサルサービス, 高齢者, 情報行動, 学習
認知, 心理, 定量分析, 人間

2. ゼミ概要

- ・週1回 1-2時間程度（曜・時限は相談の上決定します）
- ・オンライン（Teams, Zoom）と対面の併用
- ・進捗の報告とディスカッション（それぞれの人が毎週）

3. 年間スケジュール（目標）

12月－1月	研究のための基礎学習, 先行研究の調査
2月－4月	研究テーマ決定, 研究計画, 調査（実験）計画
5月	着手発表会準備
6月	着手発表会
7月－8月	調査（実験）準備
9月－10月	調査（実験）
10月	中間発表会
11月－12月	分析, 論文執筆
1月	論文提出, 最終発表会

4. これまでの卒業論文のテーマ

- ・日韓の認知症専門図書館における取り組み
- ・茨城県の中学校・高校における 図書室登校の実態
- ・精神・知的障害者への図書館サービスをめぐる先進事例に関する研究
- ・図書館におけるピクトグラムの設置状況と有効性に関する研究
- ・OPACのインターフェースが検索行動に与える影響について
- ・公共施設閉鎖における意思決定プロセスの分析

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、各種メディア（情報資源）の特徴やそれらの社会や図書館における活用を、日本語や英語で研究する学生が集まっています。

例えば、今年度のゼミ生は、現代小説を翻訳して海外で普及することを支援する日本政府の取り組み、公共図書館で絵本を使って子どものウェルビーイング向上を目指すイギリスの読書推進事業、大学図書館における SNS の活用とアメリカ図書館協会のガイドライン、読書バリアフリー法以後のオーディオブックやデジ図書の社会的アクセス容易性、戦後 GHQ 占領下での絵本の出版と検閲といった研究に取り組んでいます。アニメ、映画、マンガを扱った研究をする学生もいます。現在のゼミ生は5名です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は各自のテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めています。質的・量的な調査のどちらも考えられます。文献を読み、テキストの語彙を量的に分析したり、統計を利用して調査をしたりすることもあります。エビデンス（根拠となる事実やデータなど）に基づいた研究を意識しながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究ではそうならないように気をつけます。研究方法（質的・量的）が多様であるせいか、高校のときの文系／理系を問わず、どちらの学生も所属しています。

研究指導は教員の研究室（対面）やオンラインで、週1回のペースで行っています。個別指導のほかにも、みんなで集まって研究報告をしたり、一緒になって考えることもあります。論文はもちろん各自で執筆しますが、学類の研究発表会の前には、みんなでプレゼンの練習をしたりもします。

あと、指導教員は、ドイツのチュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で仕事をすることがあります。ドイツの図書館に興味のある学生もいましたらどうぞ相談して下さい。

◆研究室の雰囲気は？

明るくて賑やかです。《楽しい企画》もあります。今年は3月に3・4年生の交流会もありました。みんなでゼミ旅行（軽井沢、那須高原、湯西川温泉など）に行ったり、さらにバーベキューや花見などをする年もあります。海外から研究者や学生が研究室を訪ねてくるときには、英語でのコミュニケーションにも挑戦してもらいます（今年はドイツや韓国からメディア・図書館関係の大学の先生が来ました）。ところで《進学・就職》ですが、大学院（博士前期課程 情報学学位プログラム）への進学その他、先輩たちの就職先には、国立大学法人職員、地方公務員（公立図書館、学校図書館の司書・学校司書、教育委員会も含む）、図書館サービスのコンサルティング関係企業、映像・音楽エンタテインメント関係会社、ゲーム制作会社（クリエイター）など多彩なものがあります。



昨年度の原研究室ゼミ生4名（3月卒業式の日に撮影）

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初からきちんとしていなくても、ゼミで良いテーマに洗練させていきますので、まずは研究室を訪問して相談して下さい。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

— 気兼ねなく発言できる雰囲気 —

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週1でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりがないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫折そうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がりつつ実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生月にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うとう先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思っています。

（研究室 卒業生 武田未来さん）

情報資源経営主専攻 村田研究室

指導教員: 村田 光司
教員部屋: 7D404
学生研究室: 7D518
今年度学生数: 4年生4名
E-mail: kmurata@slis.tsukuba.ac.jp

研究キーワード:

アーカイブズ、過去の記憶と情報、歴史学(西洋史)、デジタルアーカイブ、デジタルヒューマニティーズ、文化遺産、古文書・写本、古天文学

受け入れ可能なテーマ(例)

- ・古い時代の記憶(神話や伝承など)・情報・モノ・アーカイブズ・図書館・写本などの形成・管理・利用(過去・現在・未来)
- ・過去の文字資料からのデータ抽出・分析など
- ・有形・無形の文化遺産の資源化(デジタルアーカイブなど)
- ・海外のアーカイブズ

これまでの卒論のテーマ:

災害伝承碑の活用、まちかど博物館、法帖デジタルアーカイブ、日本刀の逸話、妖精伝承、アーサー王伝説、ローマ皇帝の記憶、筑波大の都市伝説、小宮祭のアーカイブズ、ジャズのアーカイブズ、など

教員の研究テーマ

- ・ヨーロッパ古代・中世のアーカイブズ・古文書写本・貨幣など歴史資料研究
- ・過去の天文記録を用いた地球環境史の研究
- ・古代・中世のモノ資料(建築物、印章など)の研究資源化(デジタルアーカイブ)
- ・日本の海外調査記録アーカイブズ(<https://researchmap.jp/kojimurat>)

ゼミについて

- ・全体ゼミ月2～3回、個人面談月1+回
- ・3年のうちはアーカイブズ、記憶関連の基礎的文献を読みます
- ・4年生は研究の進捗発表と議論
- ・希望があれば、たまにどこかに出掛けます
- ・ゼミ内容やイベントは学生の希望に応じて決まります



▲ギリシャでの調査風景

▼徳川ミュージアム



年間スケジュール(仮)

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
仮配属 文献購読・発表				研究 テーマ 決定		着手発 表		施設体験など		中間発 表		卒論発 表	



「知識情報・図書館学類誌MILK」Web公開中。
過去のバックナンバーのご覧いただけます。
<https://milk.klis.tsukuba.ac.jp/>
ご意見・ご感想お待ちしております！

Credit

知識情報・図書館学類誌MILK研究室紹介号

- 発行者 鈴木伸崇（知識情報・図書館学類長）
- 発行日 2025年10月1日
- 編集部 吉岡秀花 板倉将通 小澤満月 関智亮
- 協力 知識情報・図書館学類 各主専攻の先生方